※令和４年度以降入学生用

学校番号	１０１３

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	ピアノ奏法Ａ	単位数	２単位	年次	２年後期
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「ピアノを演奏すること」を通して楽しさを感得し、音楽をどのように感じて表すのか、またそのために必要な演奏技術を身に付けるように学習を進めていきます。
・歴史的、文化的背景などの広い視野で音楽を捉えることで、音楽文化の理解を一層深めていきます。
・実技テストは授業中に発表形式で行います。お互いに聴き合うことで他者の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げていきましょう。

２　学習の到達目標

「ピアノを演奏すること」を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
（１）楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
（２）音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
（３）主体的に活動に取り組み、音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。（知識） ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、ピアノ演奏で表している。（技能）	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて表現意図をもっている。音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。	主体的に表現の学習に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期中間	曲の表現内容を考え、演奏で表わそう	【ピアノ演奏①】 ・課題曲の選曲 ・表現内容を考える ・表現をするための技能を身に付ける ・自らの課題を発見し、試行錯誤しながら表現を追求する ・課題曲の演奏発表のリハーサル ・演奏発表会	a:曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。(知識) a:音楽の構成にふさわしい奏法や、身体の使い方などの技能を身に付けている。(技能) b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫している。 c: 曲想と楽器の音色や奏法との関わりに関心をもち、主体的によりよい表現を追求する学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 演奏発表	ワークシート、レッスンによる観察	ワークシート、レッスンによる観察
		【他者の演奏の鑑賞①】	a 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解している。(知識) b:曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽表現の共通性や固有性について考えながら主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	鑑賞の記録	鑑賞の記録	鑑賞の記録、観察

※令和４年度以降入学生用

後期期末	より深く演奏表現に取り組もう	【ピアノ演奏②】 ・課題曲の選曲 ・表現内容を考える ・表現をするための技能を身に付ける ・自らの課題を発見し、試行錯誤しながら表現を追求する ・課題曲の演奏発表のリハーサル ・演奏発表会	a:曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。(知識) a:音楽の構成にふさわしい奏法や、身体の使い方などの技能を身に付けている。(技能) b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに器楽表現を創意工夫している。 c: 曲想と楽器の音色や奏法との関わりに関心をもち、主体的によりよい表現を追求する学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 演奏発表	ワークシート、レッスンによる観察	ワークシート、レッスンによる観察
		【他者の演奏の鑑賞②】	a 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解している。(知識) b:曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽表現の共通性や固有性について考えながら主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	鑑賞の記録	鑑賞の記録	鑑賞の記録、観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度